

議会運営委員会先進地視察報告書

日 時	令和元年11月7日(木) 午後1時30分から午後3時30分まで
視 察 先	茨城県守谷市議会
視 察 項 目	(1) タブレット端末の活用について (2) 議会活性化に向けた取り組みについて
視 察 者	委員長 渡邊眞弓 副委員長 藤井貴範 委 員 伊藤清一郎、泉 清秀、中平 猛、林 正則、勝崎泰生
視 察 内 容	(1) タブレット端末の活用について 守谷市議会では、平成25年5月からタブレット端末導入の検討を開始し、1年間をかけて視察や調査を行った。その成果として、ペーパーレス会議システム「moreNOTE」とタブレット端末を導入し、26年12月議会から紙資料とタブレットを併用して議会を開催。さらに、翌年3月議会からは予算書以外の紙資料を廃止し、現在では全ての紙資料を廃止している。これにより、資料の印刷、配付、持ち運びなどの必要がなくなり、また、迅速な情報共有ができるなどの効果がある。今後は議会側が、市民のもとに出向いてプレゼンテーションをするなど活用方法の検討している。 (2) 議会活性化に向けた取り組みについて 平成24年2月の市議会議員選挙で定員20人に対し34人が立候補し、8人の新人が当選した。また市民からは議会不要論が湧き起こっており、議会として危機感を抱いたことから、議会改革に取り組むこととなった。 主な取り組みとして、市民が5人以上集まる集会などに議会が出向き、報告または意見交換を行う「出前懇談会」、年間を通じて会期とする「通年議会」、決算審査の結果や指摘事項を翌年度の予算編成に反映させるため、執行した事業に対し評価を行う「事業評価」、「議会だより」のリニューアルなど、様々な先進的な取り組みを行っている。
所 感	守谷市議会は、積極的に議会改革に取り組み、SNSを活用した情報発信、議会報告会開催、事業評価(事業仕分け)実施、議会基本条例の制定、ペーパーレス議会(タブレット導入)開始、議会だよりの全面リニューアル、通年議会の導入など、様々な改革を行っていた。 タブレット導入の目的は、議員間で迅速な情報の共有を図ることであった。また、ペーパーレス化の推進により、用紙代、資料印刷に係る人件費の削減が図られていた。年間の削減額は53万円程度とさほど大きくないものの、金額にあらわれない議会事務局の業務負荷の削減効果はさらに大きいものと感じた。 一方、理事者側にはタブレット端末は導入されていなかった。ペーパーレス化の効果を最大限に発揮させるには、理事者側の導入も必要であると感じた。 本市においても、前期の議会運営委員会からの申し送りもあり、タブレット端末を有効に利用できるように、議員も勉強しながら導入に前向きな姿勢で検討する必要があると考えられる。 導入の時期については様々な考え方があがるが、いずれにせよタブレット導入の検討をスタートさせるよいきっかけとなった視察であった。

議会運営委員会先進地視察報告書

日 時	令和元年11月8日（金）午前10時から正午まで
視 察 先	埼玉県所沢市議会
視 察 項 目	(1) 政策立案機能強化の取り組みについて (2) 議会活性化に向けた取り組みについて
視 察 者	委員長 渡邊眞弓 副委員長 藤井貴範 委 員 伊藤清一郎、泉 清秀、中平 猛、林 正則、勝崎泰生
視 察 内 容	<p>(1) 政策立案機能強化の取り組みについて</p> <p>所沢市議会では、地方自治法の規定による「専門的知見の活用」を活かすため、平成28年度に議会のシンクタンクとして「政策研究審議会」を設置した。設置の際には議員提案による「所沢市議会政策研究審議会条例」を制定し、議会が設置する常設型の附属機関に位置付けた。</p> <p>審議会の委員は、地元大学の研究者3名と副市長の計4名に委嘱。審議会における審議の流れとしては、まず、議員や市民等から提案された政策課題を正副委員長連絡協議会において整理した後、審議会に諮問する。これを審議会ですべて3～4か月かけて審議した後、議長に答申し、議会はその結果を政策形成に活用している。課題として、諮問事項の内容によっては審議会委員の専門外となり、十分な審議ができない可能性があるということが挙げられる。</p> <p>(2) 議会活性化に向けた取り組みについて</p> <p>議会活性化に向け、ICT化の推進、ワールドカフェ形式による市民との懇談会、政策討論会など19の取り組みを実施している。</p> <p>中でも、ワールドカフェ形式による懇談会は、議会のマスコットキャラクター「みみ丸」の名を冠した「みみ丸カフェ」という名称で実施されていた。20代から40代の若い世代の市民を主な対象とし、お茶やお菓子を用意して和やかな雰囲気での懇談を行うというユニークな取り組みであった。</p>
所 感	<p>所沢市議会では、政策研究審議会を議会の附属機関として設置し、政策立案機能の強化に役立っていた。同審議会への諮問事項は、議員や会派、委員会から提案でき、議会全体で政策形成を推し進めようとする強い意志を感じた。また、平成29年には市民からも政策提案の募集を行い2件の応募があった。審議会への諮問には至らなかったが、大変興味深い試みであり、今後の動向に注目したい。</p> <p>その他の議会改革等の取り組みのうち、特に広聴機能の充実については、目をみはるものがあった。年2回、各回2会場での議会報告会の開催、年1回の政策討論会のほか、若い世代の意見を聞く新しいスタイルの懇談会「みみ丸カフェ」などが開催されており、市民への議会情報の提供機会を創出するとともに、多世代の市民に対する参加機会の拡大と関心の向上が図られていた。報告会を市役所会議室と地域の会館等で複数回開催する、毎年12月議会で議場コンサートを開催する等、開かれた議会を目指す姿はすばらしいものがあった。</p> <p>議会のICT化については、「所沢市議会ICT化推進基本計画」を策定し、実施する決議を行っていた。タブレット端末の購入は公費から支出するのではなく、政務活動費から支出できるようにして導入を進めた点が参考となるとともに、市議会のICT化への強い決意を感じることができた。</p> <p>本市議会でも、議会の活性化をさらに進める上で、大変参考となる視察となった。</p>